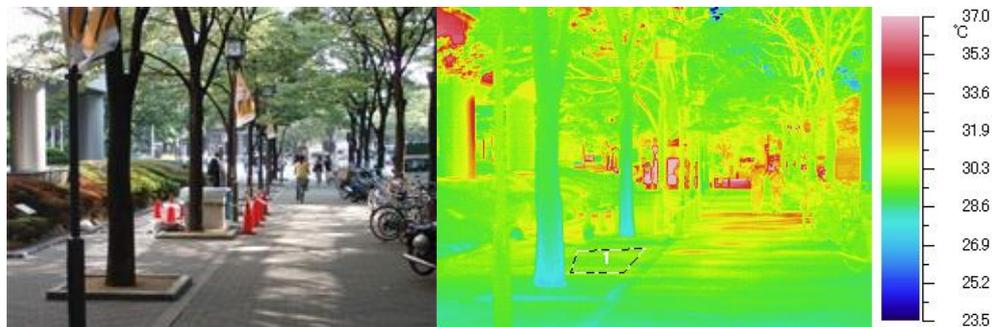


(2) 府域の適応策の取組み

○みどりの創出による適応策

① 緑陰形成



出典) 大阪府資料

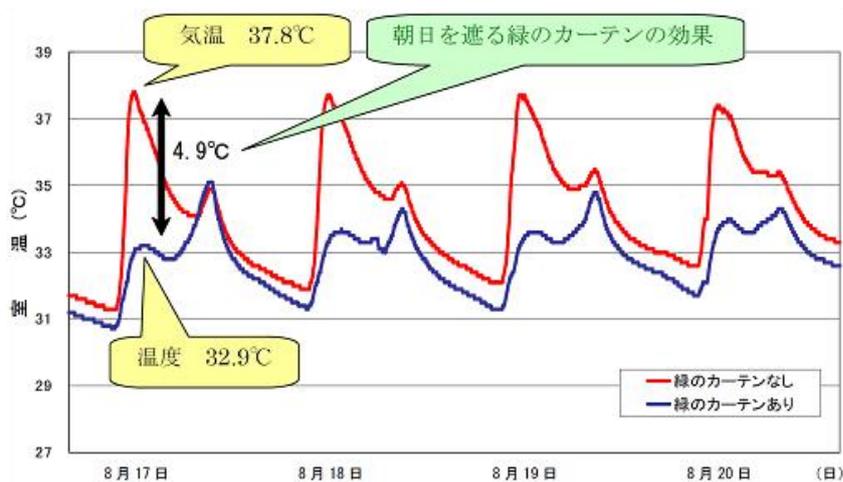
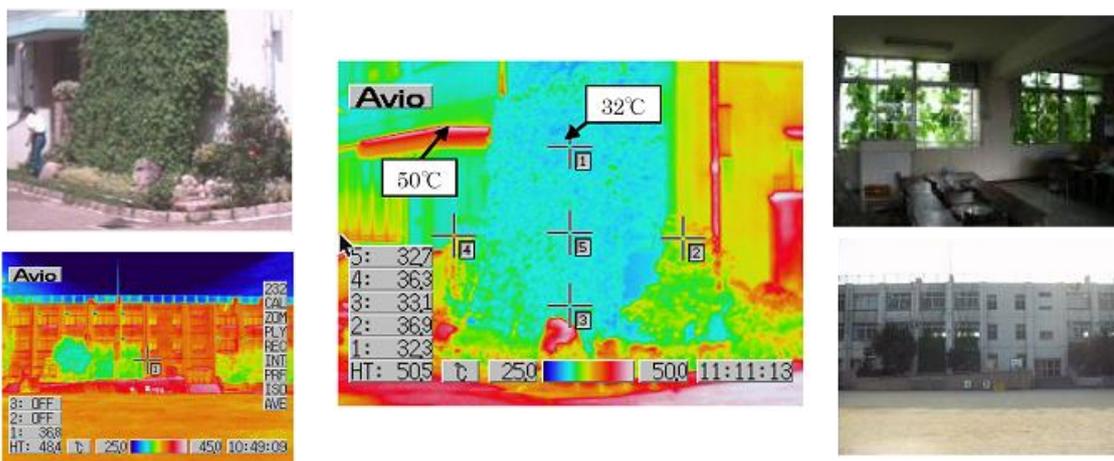
街路樹等の陰により、人への日射を直接低減するだけでなく、路面への日射を低減し、路面温度の上昇抑制にも寄与することができる。また、街路樹の根元付近は相対的に低温な地中温度が伝導によって地上部に現れるため、周辺の気温を微量ながら低下させるといった効果もある。歩道では連続した緑陰を形成することが重要であるが、信号待ちなどの熱ストレスを解消するために、スポット的に緑陰を形成することもある。



緑化による信号待ちの熱ストレス解消

出典) 大阪府資料

② みどりのカーテン



平成21年 ゆとりとみどり振興局調べ

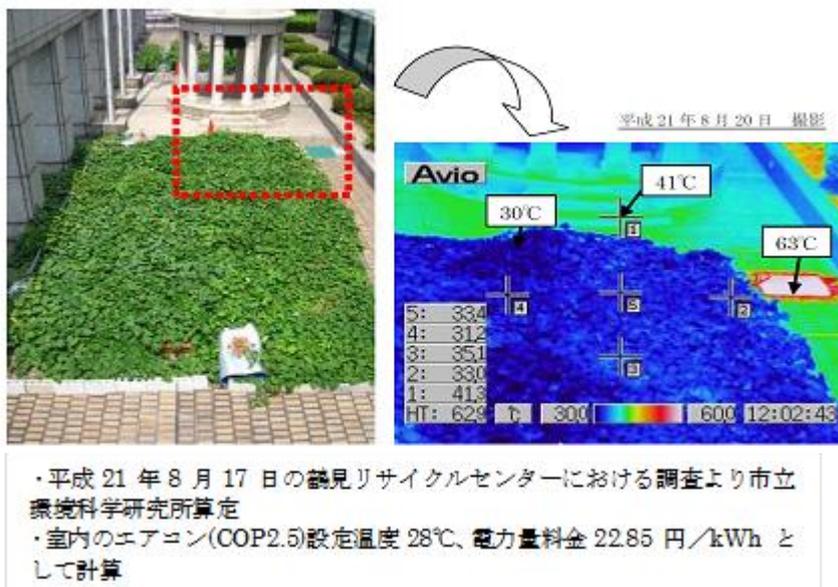
- ・教室の東面に緑のカーテン設置。西面には遮蔽物なし。
- ・換気していない密室状態の教室中央の机内にデータロガー設置。

出典) 大阪市資料

建築物の壁面に、みどりのカーテンを設置することにより、建築物壁面への日射が低減し、建築物の蓄熱が抑制され、歩行者空間にかかる壁面温度の上昇を抑制することができる。また、植物が夏の日差しを遮る効果が「見える化」され、効果がわかりやすいため、府民自らによる推進を促進することができる。さらに、建物へ貫流する熱量の低減、蓄熱が抑制されるため、建物の省エネも期待できる。

③ 敷地の緑化

○熱画像でみる表面温度の違い（撮影場所：大阪市役所 本庁舎屋上）



出典) 大阪市資料

敷地を緑化することにより、地表面の蓄熱を抑制し、路面の温度上昇を抑制することができる。また、水の蒸散作用により気温を低減することができる。

○建築物による適応策

① ミスト噴霧装置設置



出典) 吹田市資料

ミスト噴霧装置を設置し、ミスト散布することによって、水の蒸発作用等により、局所的な気温を低減することができる。吹田市では、商店街（全長1,044メートル）にドライ型ミストを導入し、7月から9月まで午前10時から午後6時までの間、自動制御によりミストを散布、商店街全体の気温上昇を抑制している。緑が少ない市街地のヒートアイランド対策となるだけでなく、買い物客は衣服を濡らすことなく快適に買い物を楽しめるため、再活性化にもつなげている。

② 水景施設の設置

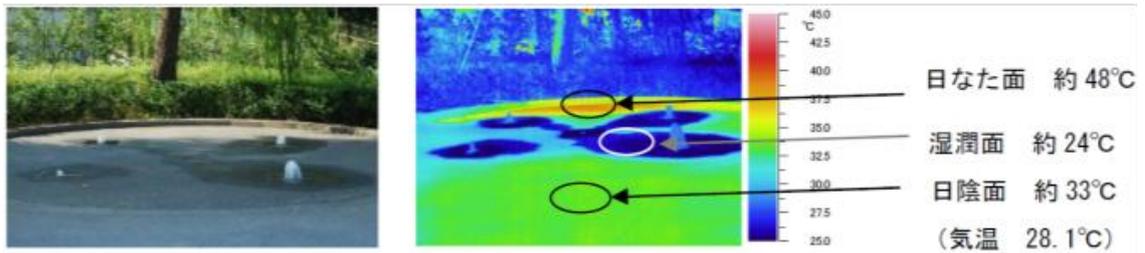


図 3.38 噴水施設などにおける熱画像測定

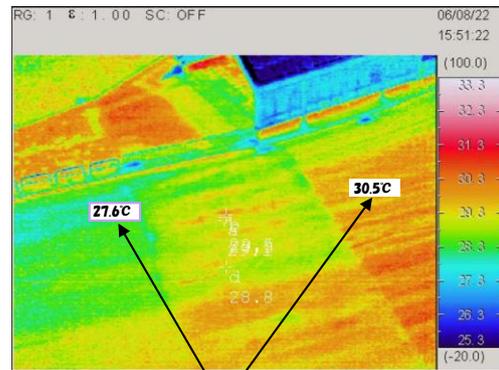
東京都港区 東京ミッドタウン, 2008/9/9 14時 資料) 平成 20 年度環境省調査

水分が蒸発することで、地表面温度や気温が低下する。また環境省調査では、噴水による湿潤面の表面温度は、日向面と比べて約 24°C、日陰面に比べ約 9°C低い結果がでている。

○地表面による適応策

① 舗装の透水性・保水化

平成18年8月22日16時20分ごろ 降雨後30分経過 気温26.3°C



アスファルト舗装と比べ、概ね3°C低下

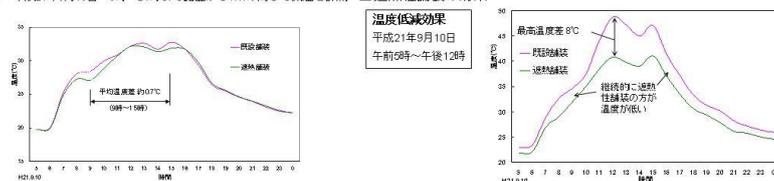
※気温は地上気象観測所(大阪)における観測値

出典) 大阪府資料

舗装を透水性・保水化することにより、水の蒸発作用等によって、舗装の温度上昇を抑制することができる。歩道部分の透水性・保水化をすることにより人への直接的な放射を防ぐことができ、車道部分の透水性・保水化をすることにより、人への間接的な放射を防ぐことができる。

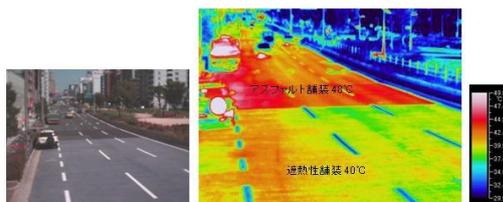
② 舗装の高反射化

調査日 平成21年9月10日 5時～24時まで路面から1mの高さで気温を計測 ■ 遮熱性舗装の効果



■ 遮熱性舗装 熱画像

平成21年9月17日午前10時撮影 (最高気温 28.5°C 天候：晴)



出典) 大阪市資料

舗装を高反射化させることにより舗装の温度上昇を抑制することができる。歩道部分の高反射化をすることにより人への直接的な放射を防ぐことができ、車道部分の高反射化をすることにより、人への間接的な放射を防ぐことができる。

○その他の適応策

① 打ち水の活用



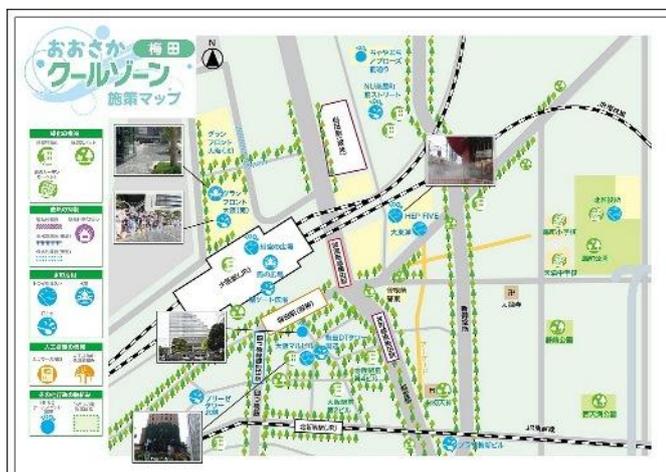
出典) 大阪市資料

打ち水をすることにより、水の蒸発による気温低減効果が期待できるだけでなく、地域ぐるみの「打ち水イベント」を自治体や地元自治会（地域）等と連携・協力して実施するため、府民個々人のライフスタイルの変革を誘導し、府民の省エネ意識を高めることにも繋がっている。

② クールスポットの活用



出典) 大阪 HITEC 大阪クールスポット 100 選の HP



出典) 大阪市資料

クールスポットを活用することにより、体感的な温度を低下させることができる。クールスポットとは、公園や街路樹、水辺など周辺に比べて涼しいと感じる屋外空間を言う。大阪府、大阪市、民間事業者、大学、NPOが連携して設立した大阪 HITEC において、平成 24 年度に「大阪クールスポット 100 選」を実施し、府民からの応募から 119 箇所を大阪府クールスポットとして選出している。また、大阪府では大阪 HITEC の「大阪クールスポット 100 選」を参考に、気温だけでなく、木漏れ日の状況や木々のざわめきなど人の感覚的な涼しさや、生き物の生態なども含めたみどりの清涼感に着目し、「大阪みどりのクールスポット」を選定し、広くクールスポットの利用を呼びかけている。大阪市では、ヒートアイランド対策の一つとして「風」の活用を位置付け、長期的な視点で、大阪湾からの涼しい海風を活用する方策「『風の道』ビジョン〔基本方針〕」で設定した 6 地区のクールゾーン毎に、具体的な取組事例の「見える化」を図るため「クールゾーン施策マップ」を作成している。